

第30講 【 病理と病証 X I 】 教科書 P.84～89

『 経絡病証 』

: 経脈や絡脈の病証について教科書 (p.84～89) に記載がある。この内容について学習する。

教科書の経絡病証には以下の内容が含まれる。

- ① 十二経脈病証 『 靈枢・経脈篇 』
- ② 奇経八脈病証 『 難経二十九難 』
- ③ 十五絡脈病証 『 素問・繆刺論篇 』 『 靈枢・経脈篇 』

この内 ③ 十五絡脈病証に関しては重要度が低いと思われるため紹介を省略する。
教科書 (p.88・89) を参照されたし。

1. 十二経脈病証

: 『 靈枢・経脈篇 』には十二経脈の病証、つまり十二経脈の失調時に現われる症状や十二経脈の持つ治療効果についての記載がある。

『 十二経絡病証について 』

- * 経絡病証は近年、国家試験に出題される頻度が急激に増えている内容であり、特に十二経脈病証は経絡病証の主要な内容であり覚える内容も多い。
- * 教科書の記載内容はいまいちはっきりせず全体の概要がとらえにくいので、今回は原文 (靈枢・経脈) を元にポイントを追ってみる。

【 手の太陰肺経 】

[原文] 《 靈枢・経脈篇 》

是動則病： 肺脹満、膨膨而喘咳、缺盆中痛、甚則交両手而瞀、此為臂厥。

是主肺所生病者： 咳、上気、喘渴、煩心、胸満、臑臂内前廉痛厥、掌中熱。

気盛有余、則肩臂痛、風寒汗出中風、小便数而欠； 気虚則肩背痛・寒、少気不足以息、溺色変。

[用語解説]

1. 是動(則)病：その経脈(臓腑)に異常変化が生じた際に出現する症状。
2. 所生病：その経脈 (経穴) が持つ主治症。

〔訳文〕

本経に異常変化が生じれば以下の病症が現れる。：肺部の脹満、膨膨として気が充満し咳嗽が出る。鎖骨上窩‘缺盆’に疼痛が生じる。ひどい場合には両手を胸にあてがい胸部の煩悶を感じ、また上腕部の気血阻逆が生じる（例：厥冷、麻痺、疼痛等）

本経経穴の肺に関する主治症には以下のものがある。例えば咳嗽・喘息等気の上逆、心煩、胸部満悶、上腕・前腕の内側前縁(前面橈側)の酸痛或いは厥冷、或いは掌心発熱等。

本経の気が盛んで実証となれば、肩背痛、風寒感冒で自汗、傷風、小便頻数、あくびが出現する。

本経の気が不足し虚証となれば、肩背痛で寒気を恐れ、呼吸が浅く切迫し小便の色も変化する。

【 手の太陰肺経 】 のまとめ

1	是動病	肺の脹満・膨満があり喘咳、缺盆の中が痛む、甚だしければ両手を交えて苦しむ。
2	所生病	咳、喘、心煩、口渇、胸満、上肢前面外側の痛み、手掌のほてり。
3	実証	肩背痛、風寒感冒で自汗、傷風、小便頻数、あくび。
4	虚証	肩背痛で寒気を恐れ、呼吸が浅く切迫し小便の色が変化

【 手の陽明大腸経 】 のまとめ

1	是動病	歯痛、頸部が腫れる
2	所生病	目黄、口の乾き、鼻出血、咽喉の麻痺、肩前面と上肢の痛み、示指の痛み
3	実証	本経経脈の走行部位の熱腫
4	虚証	寒気により戦慄しなかなか温かさが戻らない

【 足の陽明胃経 】 のまとめ

1	是動病	寒くて振るえる、呻る、欠、顔が黒い、病が至れば人や火を嫌い、木の音を聞くとびっくりして驚く、心が動かないよう引き籠もる。甚だしければ高い所に登って歌いたがり、衣服を脱ぎ捨てて走りたがる
2	所生病	躁鬱、汗、鼻出血、顔面の麻痺、頸部の腫れ、咽喉の麻痺、腹水、膝が腫れ痛む、足背の痛み、消穀善飢
3	実証	体の前面が発熱する。(胃の表現として)消穀善飢、小便色黄
4	虚証	体の前面が冷え、戦慄する。(胃の表現として)脹満

【 足の太陰脾経 】のまとめ

1	是動病	舌が強ばり、物を食べると吐く、胃脘部痛、腹脹、げっぷ、おならやげっぷで楽になる、体が衰え、体が重い
2	所生病	舌が痛む、体を動かすことができない、食滞、心煩、心下急痛、泄瀉、尿閉、黄疸、下肢内側の腫れ痛み、足第1指の麻痺

※ 実証・虚証の記載無し

【 手の少陰心経 】のまとめ

1	是動病	咽喉が乾く、心部が痛む、口渇し飲み物を飲みたがる
2	所生病	目黄、脇痛、上肢前面内側の痛み、手掌のほてりと痛み

※ 実証・虚証の記載無し

【 手の太陽小腸経 】のまとめ

1	是動病	咽喉の痛み、顎の腫れ、振り返れない、肩が抜けるように痛み、腕が折れるように痛む
2	所生病	耳聾、目黄、頬の腫れ、頰・顎・肩・上肢後面内側の痛み

※ 実証・虚証の記載無し

【 足の太陽膀胱経 】のまとめ

1	是動病	頭・目・項部が抜けるように痛む、脊柱が痛み、腰が折れるように痛む、股関節は曲がらず、膝関節は結ばれるようで脛は裂かれるようである
2	所生病	痔・おこり・精神異常、頭頂部の痛み、目黄、涙、鼻出血、項・背・腰・尻・膝・脛・足の痛み。足の第5指の麻痺

※ 実証・虚証の記載無し

【 足の少陰腎経 】のまとめ

1	是動病	知飢不食、顔色が黒い、気喘、咯血、立ちくらみ、気が足りなければ物事に恐れる
2	所生病	口が熱し、舌が乾き、咽喉が腫れる、心煩、心痛、黄疸、腰部・大腿内側の痛み、冷え、しびれ、横になるのを好む、足底のほてり

※ 実証・虚証の記載無し

【手の厥陰心包経】のまとめ

1	是動病	手掌が熱する、上肢がひきつる、腋が腫れる、甚だしければ胸脇がつかえる、心悸、面紅、目黄、笑い続ける
2	所生病	心煩、心痛、掌のほてり

※ 実証・虚証の記載無し

【手の少陽三焦経】のまとめ

1	是動病	耳鳴り、咽喉の腫れと麻痺
2	所生病	汗、目尻の痛み、頬の痛み、耳後・肩・上肢の外側が痛む、第4指の痛み

※ 実証・虚証の記載無し

【足の少陽胆経】のまとめ

1	是動病	口苦、溜め息が多い、心脇部痛、寝返りができない、顔色がくすみ、皮膚に光沢がない、足が外反し熱する
2	所生病	頭痛、顎の痛み、目尻の痛み、缺盆の腫れ・痛み、腋下の腫れ、汗、寒くて振るえる、おこり、下肢外側の痛み、足の第4指の麻痺

※ 実証・虚証の記載無し

【足の厥陰肝経】のまとめ

1	是動病	腰痛で仰臥・伏臥できない、男性は疝気、女性は小腹が腫れる、甚だしければ咽喉が乾き顔色がすすけて青黒くなる
2	所生病	胸満、嘔吐、泄瀉、疝気、遺尿、尿閉

※ 実証・虚証の記載無し

2. 奇経八脈病証

:『難経二十九難』には奇経八脈の病証、つまり奇経八脈の失調時に現われる症状についての記載がある。

	奇 経	病 症
①	督 脈	脊柱のこわばり、頭・足・下腹部から胸・心臓の痛み、痔、水腫、遺尿、不妊(女)
②	任 脈	疝気、帯下、月経異常、腹部皮膚の痛み、かゆみ
③	衝 脈	逆気して泄(逆気:悪心嘔吐・めまい・頭痛/泄:下痢)
④	帯 脈	腹がはり、腰は(水中に座っているように)冷える、フワフワ座りが悪い
⑤	陽蹻脈	陰が緩んで陽がひきつる、目が痛む(下肢内側・前半身の緩み、後半身のひきつり)
⑥	陰蹻脈	陽が緩んで陰が引きつる(下肢外側・後半身の緩み、前半身の引きつり)
⑦	陽維脈	寒熱に苦しむ
⑧	陰維脈	心臓部痛に苦しむ